

2010年4月27日
マツダ株式会社

2010年3月期 通期決算説明会
主な質疑応答

Q: 2010年3月期の営業利益は、昨年5月の期首見通しから大幅に改善したが、その理由を教えてください。

A: 2010年3月期は、昨年5月時点では営業損失500億円の見通しでした。大幅改善の主な理由として、台数・構成で約280億円、為替の円安効果で約200億円改善する一方、販売費用は60億円程度悪化しましたが、それを上回るコスト改善の効果がありました。また、第2四半期からは国内工場の稼働率80%でも利益を確保できるコスト構造への転換を果たし、通期営業利益は95億円の黒字となりました。以上の改善により、期首見通しからは約600億円改善することができました。

Q: 2011年3月期の市場別販売見通しを説明して欲しい。

A: 2011年3月期のグローバル販売台数は127万台、対前年で7万7千台増加(+6%)の見通しです。北米、中国、タイを含むその他の市場で販売を拡大する計画です。

新型「マツダ5(日本名:プレマシー)」をグローバルに導入するほか、北米市場へは、お客様の期待が高い「マツダ2(日本名:デミオ)」を投入する予定です。また、中国では「マツダ3(日本名:アクセラ)」の生産を、現在の重慶工場から、生産能力に比較的余裕のある南京工場に移管することで、販売増に対応していきます。同じく中国市場へは「マツダ8(日本名:MPV)」も投入いたします。

主要市場でマツダ車の残存価値は着実にアップしており、ブランド価値は継続的に向上しています。2011年3月期も商品主導で、主要市場でのシェアを維持、向上してまいります。

Q: 「中長期施策の枠組み」について、内容を教えてください。

A: マツダは、2007年3月に、10年先を見据えた長期戦略に基づき、当初4年間をカバーする中期計画「マツダ アドバンスメントプラン(MAP)」を発表しました。その後、急激な経営環境の悪化に対し、様々な緊急施策を実施し、収益の改善に取り組みました。と同時に長期的な施策についても検討を進めてまいりました。2007年から現在までの環境変化と長期施策の取り組みの進展を踏まえ、この度、5つの柱を中心とする「中長期施策の枠組み」を発表いたしました。

5つの柱とは、①ブランド価値、②モノ造り革新、③環境・安全技術、④新興市場、⑤フォードシナジー、です。

また、この枠組みの中で、2016年3月期の見通しを公表しています。具体的には、(1) グローバル販売台数170万台、(2) 営業利益1,700億円、(3) ROS(売上高営業利益率)5%以上、

の3つです。これらは、現在の需要予測、為替、マーケットシェアなどをベースに「5つの柱」を計画通り実現するとの前提に基づくもので、目標やコミットメントではありません。今後は、毎年、状況をアップデートしながら見通しに対する進捗をフォローしていきます。

Q: 配当の予定について教えてください。

A: 2010年3月期は、期末配当金として1株当たり3円を予定しています。また、2011年3月期も、1株当たり3円の期末配当とさせていただく予定です。